

問1 飛鳥時代、有力な豪族として聖徳太子（厩戸皇子）と協力し、仏教を広めるとともに天皇を中心とした国づくりを進めた人物はだれですか。

（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 蘇我馬子 2. 蘇我入鹿 3. 蘇我稲目 4. 物部守屋

問2 672年に発生した古代日本最大の内乱である「壬申の乱」は、どのような状況下で起こった出来事ですか。その背景として最も適切な説明を選びなさい。

（2019年 香川公立入試 類似）

1. 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐる、天皇の弟と子の間で争いが起きた。
2. 聖徳太子の死後、蘇我氏が政治の実権を握り、独裁的な政治を行ったことに不満が募った。
3. 大化の改新を進める中大兄皇子に対して、旧勢力の貴族たちが一斉に反旗を翻した。
4. 唐と新羅の連合軍に敗れた後、国防体制の整備をめぐる朝廷内が二つの勢力に分かれた。

問3 645年、中大兄皇子や中臣鎌足らが蘇我氏をたおしたことをきっかけに始まった政治改革では、どのような国家体制を目指したか。最も適切なものを選びなさい。

（2019年 香川公立入試 類似）

1. 天皇を中心とした中央集権的な国づくり
2. 有力な豪族による合議制に基づいた政治
3. 武士が政治の実権を握る封建的な仕組み
4. 外国の王をトップに据えた国際的な統治

問4 朝鮮半島西岸の百済旧領に近い位置で行われた白村江の戦いにおいて、唐・新羅の連合軍に敗れた日本は、大陸からの侵攻を恐れて国内の防衛体制を急いで整えました。このとき、九州の防衛拠点である大宰府を保護するために築かれた、大規模な土塁の名称を答えなさい。

（2025年 茨城公立入試 類似）

1. 水城 2. 大野城 3. 多賀城 4. 山城

問5 法隆寺の金堂に見られる、柱の中ほどに膨らみを持たせる「エンタシス」という技法や、その建築様式について正しく説明しているものはどれですか。

（2024年 岐阜公立入試 類似）

1. ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。
2. 唐の先進的な文化を直接取り入れた、国際色豊かな天平文化の特徴を示している。
3. 日本独自の風土に合わせて発展した、優雅な国風文化の特徴を示している。
4. 禅宗の影響を受け、簡素で精神性を重んじた東山文化の特徴を示している

問6 飛鳥時代、聖徳太子が604年に定めた「十七条の憲法」の第一条には、「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という一節があります。このように役人の心得を説き、天皇の命令に従うことを強調した主な目的として最も適切なものはどれですか。

（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため
2. 氏姓制度を強化し、有力な豪族が代々高い役職を独占する仕組みを維持するため
3. 唐の律令にならい、犯罪に対して厳しい刑罰を科すことで社会の秩序を保つため
4. 仏教を国教と定め、寺院を建立するための多額の税を民衆から徴収するため

問7 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、倭国（日本）の政権は、大陸からの侵攻を非常に強く警戒するようになりました。そのための防衛対策として、九州地方を中心に実施された内容として正しいものはどれですか。

（2024年 高知公立入試 類似）

1. 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した
2. 元軍の再来に備えて、博多湾の沿岸に石築地（元寇防塁）を築いた
3. 東北地方の蝦夷（えみし）を制圧するために、多賀城を築き鎮守府を置いた
4. 白河上皇が北面の武士を組織し、御所の警備と寺社の強訴を防いだ

問8 推古天皇の摂政として、才能や功績に応じて位を与える冠位十二階の制度や、役人の心構えを示す十七条の憲法を定めた人物は誰か。

（2018年 北海道公立入試 類似）

1. 聖徳太子 2. 中臣鎌足 3. 天武天皇 4. 天智天皇

問9 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度について、その目的と仕組みを正しく説明しているものはどれですか。

（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。
2. 有力な豪族の家柄を重視し、世襲によって代々高い役職を独占させることで、政治の安定を図った。
3. 土地と人民をすべて国家のものとし、位階に応じて区分田を割り当てることで、税制の基礎を築いた。
4. 各氏族に対し、その功績に応じて「姓（かばね）」を授けることで、天皇を中心とする身分秩序を固定した。

問10 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。

（2017年 沖縄公立入試 類似）

1. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した
2. 大陸の影響を拒絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した
3. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた
4. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した

問11 飛鳥時代から平安時代にかけて、日本の朝廷は先進的な制度や文化を学ぶために中国へ使節を派遣しました。この使節の名称にも使われており、日本の律令国家形成に大きな影響を与えた中国の王朝名を選びなさい。

（2023年 秋田県公立入試 類似）

1. 唐 2. 隋 3. 宋 4. 元

問12 中大兄皇子とともに政治改革を主導し、後にその功績を称えられて「藤原」という姓を授かり、平安時代の摂関政治へとつながる一族の祖となった人物は誰ですか。

（2017年 和歌山公立入試 類似）

1. 中臣鎌足 2. 聖徳太子 3. 小野妹子 4. 北条時政

問13 聖徳太子が行った政治改革のうち、「詔（天皇の命令）を承けては必ず謹め」といった記述が含まれ、仏教を敬うことや官吏（役人）が守るべき道徳を示したものはどれですか。

（2018年 大分県公立入試 類似）

1. 十七条の憲法 2. 冠位十二階 3. 大宝律令 4. 五箇条の御誓文

答え合わせ・解説

問1	答え 1 蘇我馬子	蘇我馬子は、仏教の受容をめぐる対立していた物部守屋を倒し、一族の繁栄を築きました。聖徳太子とともに冠位十二階や十七条の憲法の制定に関わり、中央集権的な国家体制の基礎を作りました。選択肢にある蘇我入鹿は馬子の孫にあたり、大化の改新（乙巳の変）で滅ぼされた人物です。
問2	答え 1 天智天皇の死後、その跡継ぎとなる皇位継承をめぐる、天皇の弟と子の間で争いが起きた。	天智天皇の跡継ぎをめぐる、弟の大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が対立したことが原因です。この争いに勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇を中心とした律令国家体制の整備をさらに加速させることになりました。
問3	答え 1 天皇を中心とした中央集権的な国づくり	蘇我氏を打倒した後に始まった大化の改新は、それまで有力豪族が持っていた権力を集約し、天皇を中心とした新しい国づくりを目指すものでした。この改革により、土地や人民を国家が直接支配する「公地公民」などの制度が整えられていきました。
問4	答え 1 水城	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇は唐・新羅の日本侵攻を想定し、対馬・苅岐・北九州に「防人（さきもり）」を配置するとともに、のろし台を設置しました。特に政治・外交の拠点であった大宰府を守るため、その前方に「水城」と呼ばれる巨大な堤（土塁）を築き、外堀に水を貯めて敵の侵入を防ぐ工夫を凝らしました。
問5	答え 1 ギリシャなどの西方文化の影響がシルクロードを経て伝わった、飛鳥文化の特徴を示している。	法隆寺の柱に見られる膨らみは、古代ギリシャの神殿などに見られる「エンタシス」と呼ばれる技法との関連が指摘されています。これは、当時の日本が朝鮮半島や中国だけでなく、シルクロードを通じて遠く西方の文化の影響も受けていたことを物語る、日本最古の仏教文化である飛鳥文化の重要な事例です。
問6	答え 1 豪族どうしの争いを鎮め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整えるため	聖徳太子が活躍した時代は、有力な豪族どうしの対立が激しく、国家としてのまとまりが欠けていました。そこで、役人が守るべき道徳的な規範として十七条の憲法を制定し、仏教の尊重や天皇への服従を求めることで、天皇を中心とした組織的な政治の仕組みを固めようとした。
問7	答え 1 大宰府の北側に水城（みずき）を築き、沿岸部に防人（さきもり）を配置した	白村江の戦いでの敗北後、天智天皇（中大兄皇子）は唐・新羅の侵攻に備え、対外防衛の拠点である大宰府を保護するために水城や山城を築きました。また、東国の兵士を「防人」として九州沿岸の警備に当たらせ、国家としての守りを固めました。他の選択肢は鎌倉時代の元寇対策や、平安時代の東北経営・院政期の説明です。
問8	答え 1 聖徳太子	推古天皇の協力者として、天皇中心の国づくりを進めたのは聖徳太子である。中臣鎌足は中大兄皇子とともに大化の改新を行い、天武天皇は壬申の乱の後に即位して律令国家の建設を進めた人物であるため誤り。
問9	答え 1 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。	聖徳太子は、従来の氏姓制度（家柄に基づく世襲制）による官僚登用から脱却し、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため、個人の能力や功績を評価する仕組みを導入しました。これが冠位十二階です。この制度では、昇進が可能であることや、冠の色によって一目で地位が判別できるといった特徴がありました。
問10	答え 1 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した	白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。
問11	答え 1 唐	聖徳太子の時代の遣隋使に続き、日本では大化の改新から平安時代の中期にかけて「遣唐使」が派遣されました。日本はこの王朝の優れた政治制度である律令や、仏教、儒教などの文化を吸収することで、中央集権的な国家体制を整えていきました。選択肢にある隋は唐の前の王朝、宋や元は唐よりも後の時代の王朝です。
問12	答え 1 中臣鎌足	中臣鎌足は、中大兄皇子の知恵袋として蘇我氏打倒の計画から改革の実行まで重要な役割を果たしました。死の間際に、これまでの功績によって「藤原」の姓を贈られ、その子孫である藤原氏は後の日本政治において大きな影響力を持つこととなります。
問13	答え 1 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、日本最初の成文法としての性格を持ちますが、現代の法律とは異なり、役人が政治を行う上での「心得」を説いたものです。同じく聖徳太子の政策である冠位十二階は「個人の才能を評価する制度」であり、この憲法とあわせて天皇中心の政治を支える基盤となりました。